

もしも、のために知っていただきたいこと

- 定期的予防接種による副反応のために、医療機関で治療が必要になったり、生活が不自由になったりしたとき(健康被害)は、法律に定められた救済制度(健康被害救済制度)があります。
 - 制度の利用を申しこむときは、その接種を受けた時に住民登録していた市町村にご相談ください。
- ※詳細は、厚生労働省HPをごらんください。「予防接種 救済制度」で検索できます。

シリーズのご紹介

このリーフレットは、法律ですすめられている定期接種のうちBCGワクチンを「きょう」接種するお子さんと、その保護者のみなさまのために、かならず知っておいていただきたい内容をまとめたものです。そのほかの定期接種についてまとめたシリーズと、あわせてお読みください。



BCG
ワクチンのはなし



MR
ワクチンのはなし



日本脳炎
ワクチンのはなし



水痘
ワクチンのはなし



DTP-IPV-Hib
ワクチンのはなし



Hib
ワクチンのはなし



小児の肺炎球菌
ワクチンのはなし



DTP-IPV
ワクチンのはなし

くわしくは
「予防接種と子どもの健康」
(発行：公益財団法人予防接種リサーチセンター)

をごらん
ください。



医療機関名

きょう

きょう 予防接種をうける
お子さんと、保護者のみなさまへ

BCG(結核)ワクチンのはなし



コ ノ ワ ク チ ン



- お子さんの体調はよいか、熱があったり、ふだんと変わったところはないか確認しましょう。
- 心配なことがあるときは、医師に相談しましょう。質問をメモしておく伝えやすくなります。
- 母子健康手帳はかならずもっていきましょう。

1

当日はココをチェック

- 小さなお子さんは動かないように、しっかりと抱っこしてあげてください。保護者のみなさまがリラックスすると、お子さんも安心します。
- 注射で泣くお子さんは多いもの。大切な予防接種が苦手にならないように、がんばったことをほめてあげるなど、保護者のみなさまの工夫がカギです。



BCGワクチンって？

- ◆ BCGワクチンは、抵抗力(免疫)の弱い赤ちゃんが結核を発症したり、重い症状の結核になることを防ぐために接種します。
- ◆ BCGワクチンを接種することで、体のなかに結核菌への抵抗力(免疫)ができ、赤ちゃんのうちは免疫をもち続けられます。
- ◆ BCGワクチンは、二の腕の外側の真ん中あたりに2カ所、スタンプを押すように接種します。
- ◆ このワクチンは1歳になるまでに接種することになっています。

○ 予防接種をうけても、お子さんの体質や体調によって完全な免疫ができないことがあります。でも予防接種をうけておくと、たとえかかっても、その多くは軽くてすみます。

2

ワクチンを接種するときのポイント

- 接種直後、30分くらいは接種後の体調変化にすぐ対応してもらえるよう、医療機関のなかでお子さんの様子を見てあげるか、すぐに医師と連絡がとれるようにしててください。この間に急な体の変化がおこることがあります。
- 帰宅後もはげしく体を動かすことはさげさせ、接種個所をきれいに保ってあげましょう。
- おふろには入れてもかまいませんが、接種個所をこすらないでください。

予防接種をうけたことは将来、その病気に対して免疫があることを示す大事な記録となります。母子健康手帳は大切にしておきましょう。

3

接種後の注意

おこるかもしれない体の変化(副反応)

- ◆ BCGワクチンを接種した後、わきの下や足のつけ根など(リンパ節)がはれたり、全身に赤みがでたりすることがあります。
- ◆ 接種による普通の反応として、5～6週間くらい後、接種個所に赤いぶつぶつや、一部に小さなうみができます。その後、かさぶたになり、接種から3カ月後にはなおります。このような反応は特に心配りませんが、まれに大きなうみになるなど、治療が必要になることもあります。
- ◆ ただし、反応がでる時期には注意が必要です。これらの反応が接種後10日以内にでたら、すでに結核菌に感染している可能性があるため、すぐ医療機関に相談してください。
- ◆ きわめてまれにアナフィラキシー¹⁾、骨炎、全身播種性BCG感染症²⁾がおこることがあるといわれています。

1) アナフィラキシー：急激なアレルギーにより、じんましんができて呼吸が苦しくなったりします。
2) 全身播種性BCG感染症：ワクチンが原因で、重い症状の結核のような状態になってしまいます。

○ 予防接種をうけた後、気になる症状や体調の変化があらわれたら、すぐ医師に相談してください。

